

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- 「日本三大美肌の湯」として名高い嬉野温泉を抱え、年間約200万人の観光客が来訪する観光都市であるが、最近では**観光客が減少**
- 地域の主要産品の一つである“**嬉野茶**”の生産高は最盛期の4割減
- 20才以下の若者人口はH27/H17年比で3割に減少し、市の総人口が1割減少するなど、**観光産業の落ち込み**が各方面に悪影響
- コロナ禍による観光客の落ち込みが観光産業をはじめとした**地域産業に深刻な影響**

将来像

- 観光都市嬉野に誕生する新たな交流拠点（新幹線駅と道の駅の同時開業）を核に、未来技術を適用・導入
- 新しい生活様式に対応した観光まちづくり、既存産業の再生・新産業の創出を図り、人口減少の抑制と交流人口の増加を目指す

推進体制

嬉野の魅力年全国・全世界に発信する環境づくり・プロジェクトチーム（PTⅠ）
来訪者の移動を支えるモビリティサービス・プロジェクトチーム（PTⅡ）

地方公共団体
嬉野市・佐賀県

民間事業者

嬉野市商工会・嬉野温泉観光協会・嬉野温泉旅館組合・駅前開発事業者・交通事業者

嬉野市
未来技術
地域実装協議会

伴走型支援

大学
久留米工業大学

警察庁・総務省・
文部科学省・国土交通省

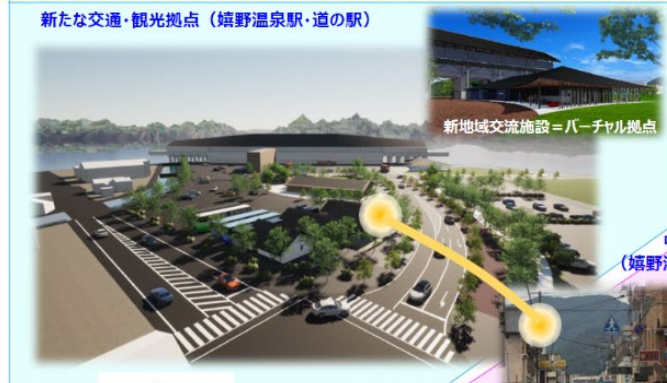
現地支援責任者
(九州地方整備局)

課題解決に向けた取組

嬉野の魅力年全国・全世界に発信する環境づくり
来訪者の安心な移動を支えるモビリティサービス
地域課題等の解消に向けたデータプラットフォームの活用

- デジタルモール・バーチャルモールの構築・コンテンツ作成
- 拠点内移動を支えるパーソナルモビリティ・新駅と温泉街を結ぶ自動運転サービス
- 地域課題等の解消に向けたデータプラットフォームシステムの構築

新たな交通・観光拠点（嬉野温泉駅・道の駅）



新地域交流施設＝バーチャル拠点

未来技術が新型コロナウイルス
禍に負けない観光の街をつくるこ
とを、ここ「嬉野」で実践！

嬉野温泉



うれしの茶



中心市街地
(嬉野温泉街・食・遊興)



塩田津



温泉湯豆腐



<実践する3つの取り組み(案)>

- (1) 嬉野の魅力年全国・全世界に発信する魅力づくり
- (2) 来訪者の移動を支えるモビリティサービス
- (3) 5G技術等を活用した各種データ収集・提供



うれしのあったか祭り

2022年度の
主な取組

- デジタルモール（嬉野メタバース）、バーチャルモール（観光情報、360度カメラ動画等）の構築・コンテンツ作成、一部運用開始
- 西九州新幹線開業イベントに合わせ、「デジタルモール・バーチャルモール体験」の実施（開業後継続実施）
- 自動運転サービスの導入に向けた交通実態調査の実施、自動運転サービス導入に向けた体験試乗会の実施
- 地域実装に向けた地域関係者との意見交換会の継続開催

取組内容

新幹線開業に合わせ、未来技術を活用した「嬉野市の魅力を全国全世界に発信」の一部運用を開始

- 「新幹線開業」に合わせ、「未来技術」を活用した観光支援コンテンツを一部運用開始。（2022年9月23日スタート）
- 構築した「デジタルモール」「バーチャルモール」などを嬉野温泉駅開業時イベント（3日間）に合わせ、一部運用開始。
 - 嬉野温泉駅に隣接した観光施設において「VRゴーグル体験」「LINE公式アカウントを通じたメタバース体験」を実施。
 - 今後、「実空間」と「デジタル空間」が連携した企画（地場産品の物販、メタバース空間内でのイベント開催など）を提案。
- 上記の運用開始に合わせ、「データプラットフォーム」の運用も開始。得られたデータを基にマーケティング分析を実施。
- 「デジタルモール」などから得られるアクセスログを蓄積する「データプラットフォーム」を一部運用開始。
 - 観光支援コンテンツの閲覧時に得られたデータを基に分析を行い、社会実装に向けた事業スキームの検討開始。

●「未来技術」の運用開始

【VRゴーグルによるバーチャルツアー実施】

- 本市の「観光地360度動画コンテンツ」を用いて「VRゴーグル体験」を実施。



【LINEを通じた、メタバース体験】

- LINE上でメタバース体験を実施。
- 「友だち」登録者向けに地場産品プレゼント企画を実施。
- 友だち登録2,593人（R5.1.26現在）

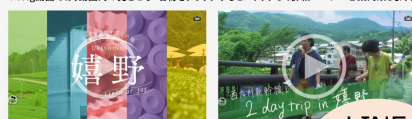
メタバース
体験友だち
登録ガチャ
企画

【本年度で構築した事業内容】

①マーケティング
分析と広報発信PR動画
作成

嬉野をさらに満喫！
Tig動画をお楽しみください

※Tig動画では、動画内の見どころ・名物をクリックするとストックして詳細ページへ案内されます。



アップデート版 2day trip in Ureshino

LINE
作成

連携

③おもてなし手段

公式LINE
運用開始

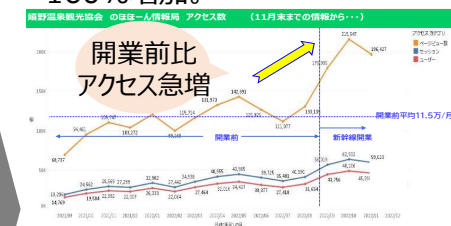
②新しい販路の確保

メタバース
運用開始バーチャルツアー
運用開始

●マーケティング分析の実施

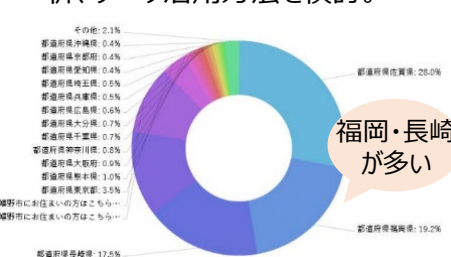
【観光協会HPアクセス件数の分析】

- 本事業のコンテンツを観光協会ホームページに掲載した効果を分析。
- 新幹線開業前比でアクセス件数が、160%増加。



【LINE登録者からターゲットの分析】

- LINE登録情報の内訳を整理。
- 取得データを基にマーケティング分析、データ活用方法を検討。



取組内容

自動運転サービスの実証に向けた各種調査と合わせて、導入可能性を検討する上で体験試乗会を実施

- **自動運転サービス実証ルートを検討するため、「交通量」及び「交通挙動調査」を実施。**
 - 嬉野温泉駅から中心市街地における自動運転サービス実証実験に向けて、新幹線開業後の「自動車交通量」「路上駐車、歩行者交通の実態」を把握するため、「交通量」及び「ビデオ観測調査」を実施。
- **次年度の実証運行に向けた機運づくり、市民意向を把握するため、最新の自動運転車両を使用した体験試乗会を実施。**
 - 来年の自動運転サービスの実証実験、2024SAGA国スポ時の一部社会実装に向け、市民や来訪者の認知、受容してもらうためのきっかけづくりとして、自動運転車両である「NAYYA EVO」、久留米工業大学が産官学連携で開発した「AI対話型自動運転パーソナルモビリティ（以下、「PM」）」を用いた体験試乗会（11月18日から3日間）を実施。
 - その他、佐賀大学が研究開発中のAIカメラを活用した「追従ロボット」、他地域の自動運転サービスの紹介を実施。

●最新の自動運転モビリティ「NAVYA EVO」、「AI対話型自動運転パーソナルモビリティ」を使用した体験試乗会を開催

- 自動運転サービス導入、次年度の実証実験に向け、関係者、市民の皆様へ最新モビリティに触れてもらう、知ってもらうための体験試乗会を開催。
- 体験試乗会の開催にあたっては、チラシによる周知・広報だけでなく、PT I 事業「LINE公式アカウント」と連携した、開催通知、参加者募集を実施。
- 体験試乗会参加者へアンケート調査（開催3日間で237票回収）を実施。市民・利用者ニーズを踏まえた、自動運転サービス実証実験計画の検討開始。



▲開催時のチラシ

▲最新の自動運転車両を活用した試乗会の開催

▲AI対話型自動運転「PM」の試乗会

▲AIカメラ搭載追従ロボットの体験